

金味 (きんあじ)



特徴

- 果実の平均果重は 1.8 kg、整枝栽培では 2.5 kg を超える大玉品種。
- 可食部は厚く歩留りに優れ、肉質は強粉質で付加価値が高い。
- セミブッシュタイプで株元の節間は詰まり、つる伸びがしない。葉、茎は大柄になる。
- 雌花の着生は良好。気候の影響を受けにくく、着果性・肥大性に優れる。

■栽培適期表

(近畿標準)

栽培型	月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
トンネル早熟		●	×	—								
露地		●	×	—								
ハウス抑制							●	×	—			

記号説明 ●: 播種 ×: 定植 —: 栽培期間 ■: 収穫期間

栽培方法

高品質・大玉の青果を出荷するためには、親づる 1 本仕立てとし、摘果作業を行い 1 果穫りを推奨します。放任とする場合は果実サイズ・品質がばらつくおそれがあります。

<つるの仕立て方>

生育初期は側枝の発生が遅いので整枝作業は、つるの方向づけだけで良いです。また、生育初期のつるは立性で太くて硬いので、早期の仕立てはつるが折れる恐れがあります。つる先が地面につき、節間が伸びてきてから行って下さい。株間は 30~40cm 推奨、株間 30cm の標準果重は 2.0kg、株間 40cm の標準果重は 2.5kg になります。

<交配>

低節位から雌花の着生があります。5 節以下に着果させても 1.5 kg 程度には肥大しますが、大玉収穫のためには 10~15 節以降に着果させてください。整枝にあたっては、着果節位までに発生する側枝はすべて除去し、同時に低節位の雌花も除いてください。確実な着果のためには人工交配を推奨します。

<収穫>

交配後 40 日程度から可食ですが、50~55 日が完熟日数の目安です。つやがあり、果皮表面がペタペタしている（触ったときに滑らない）ものは未熟です。果皮のつやが落ちて表面がサラサラしてくれば成熟のサインです。本品種は果梗部（軸）のコルク化が一般品種より早いため、これを目安にする場合は、通常品種よりも 5~10 日収穫を遅らせて（コルク化を十分に確認して）品質向上を図ってください。

粉質系品種の特徴

収穫直後はデンプン割合が高く、糖度がほぼないので甘みはありません。追熟させることでデンプンが糖に変わり甘みが増します。保存のためにはキュアリングという処理を行いますが、とくに粉質系品種の利用にあたってはこの処理を行って品質向上を図ります。（キュア

リング…高温と直射日光を避けられる場所で数日~10 日程度置き、花梗部などの切断面を乾燥させます。）キュアリング後は日持ち性が向上し、追熟によるデンプンの糖化によって甘味が増します。10℃程度の温度で保存すれば食味の低下が抑えられ、長期保存による出荷調整を行うことも可能です。

栽培上の注意点

一金味の特長を生かした高品質な青果を出荷するために—高粉質の果実を生産するには、より多くのでんぷんを果実に蓄積させることがポイントになります。収穫間際まで果実に十分な養分を供給、蓄積させます。本品種はとくに「大玉」・「高粉質」が特長となるため、肥大型~収穫期までの草勢維持に努めてください。

<草勢維持の管理>

○基肥の過剰施肥には注意してください。生育初期の過繁茂を防ぎ、

株の充実を促します。

- 基肥には有機質肥料を利用するなどして栽培後半の肥効を維持してください。
- 株元の葉の黄化は草勢低下のサインです。葉面散布等で草勢回復に努めます。
- よほど草勢が強くない限りつる先の摘芯は不要です。交配期以降、着果後に発生する側枝が強くと草勢が落ち着かないようならば摘心を行ってください。

